

## 第1回小田川柳井原地区川づくり検討協議会 議事要旨

開催日時：平成29年2月15日（水） 10:00～12:10

場 所：岡山河川事務所 2階会議室

出席委員：7名中6名出席

### 規約説明

意見なし。（承認）

### 議事説明（非公開部分の確認）

異議なし。（承認）

### 委員長選出

異議なし。（承認）

### 議事①小田川多自然川づくり検討の概要

意見なし。

### 議事②検討に要する物理条件の整理及び流水環境整備について

委員長：（2 ページについて）平水と濁水は期間内の平均であると思うが、平均より少ない流量でも大丈夫か。

事務局：みお筋に深みを設けるなどにより、生物が一時的に避難できるような工夫を考えている。

委員：どの辺りに深みを設けるかによって到達できるかもあるため、想定する種にも留意する必要がある。

委員長：浅いと水温が上がるとかもあると思う。

委員：現況小田川と同等の環境を創出するのであれば、実施箇所の河床幅を明瞭にして、現況と比較できるようにしてほしい。

9 ページの水位縦断で、-1.6～-1.7k の瀬が-2.0k に移動する、0.0k は緩やかになるということによいか。設定した低水路幅は良いと思う。

事務局：瀬の変動は認識の通りである。

委員長：9 ページの河床変動計算の条件（上流端、給砂）はどうしているか。

事務局：直轄上流端の 8.0k から計算を実施しており、給砂は能力見合い（平衡給砂）である。

委員長：0.0k 付近で掘れるが、環境的にはどうか。

事務局：治水としては将来計画として掘削する必要があるため問題ないが、環境については別途検討していく必要があると考えている。

委員：現況堤外水路の水の供給はどう考えれば良いか。

事務局：宮田堰から供給された水が還元されている。

委員：堤外水路は2本あるが、ここでいう堤外水路はどこのことか。

事務局：上流側の堤外水路であるが、どちらも同様な環境であると考えられる。

委員：水生生物にとって水深・流速も大事だが、水質はどうか。

事務局：全体としては問題ないことを確認しているが、細かいワンドなど個別箇所については形が決まってから検討したいと考えている。

委員長：貯水地の環境は維持できるのか。流れが緩いので、現在と同じくらいと考えられると思う。ただ、外来種が侵入する可能性があるが、対策は考えているのか。

事務局：貯水池の環境とは異なった環境が創出されると考えているが、詳細については今後検討する必要がある。外来種対策については、一部クリークのところで説明する。

委員：池の大きさが変わった場合にフナとかがどう変わるのか予測するのは難しい。いなくなることはないと思う。

### 議事③多自然川づくりの実施方針等 1) 多様な動植物の生息環境の保全

委員：クリークは2つ作ったらどうか。①は掘り残しか、埋め残しだけで済むため、施工も大変ではない。

候補地①の取水口は平面で見ると-1.6k 下流くらいで、縦断図で見ると水が流れるのではないかと。将来的にたまって流れても良いという形で作ればよいと思う。

候補地②は取水の位置をもっと上の露岩しているところにして、堤外水路などで水を持ってくれば良いと思う。

クリークを考慮して高水敷の侵食堆積のチェックが必要である。

断面形は縦横比を揃えて、もっと拡大した図を次回提示してもらいたい。

委員：洪水時に締切堤を水は超えるか。

事務局：超えない構造である。

委員：水の取り入れで、堰上げすると下流の回遊魚が遡上できなくなるため、配慮が必要である。

委員長：南山上流部の河床が低下しないように、自然石を配置するなどを検討すると良い。せっかく作るので、2つ作るよう検討してもらいたい。

委員：将来的にメンテナンスも含めて維持管理をしていくのか。

事務局：メンテナンスフリーが望ましい。維持管理の負担がかからないように作って、悪くならないようであれば、自然に任せたいと考えている。

委員長：大洪水の時などはある程度人工的に直す必要もある。

委員：現在の堤外水路の断面形が分かれば示してほしい。

### 議事③多自然川づくりの実施方針等 2) アサザの生育環境の保全

委員：土をどういうふう to 確保するのが大切になる。今後実施に向けて、どこの土をどう選んで、どう入れるか留意してもらいたい。

委員：保全池の年間の水位を確認してほしい。

水質の変動についても、現在の水質と比較、確認してもらいたい。

事務局：水位は平水流量で示しているの、年の半分はこの水位程度になる。高梁川の水  
位も考慮して統計を取っている。水質はまた整理して説明したい。

委員：たまたまところの水位変動、頻度や時系列でどういう変化をするかが大事である。  
水循環の観点からも大事だが、人の利用を考えた時の水際の変動域は植物が生え  
なくなるので、処理の仕方も難しくなる。2つの観点から位況の整理が必要であ  
る。

ワンド等の緩流域には次第に有機物が堆積し、夏場に嫌気化して DO (溶存酸素量)  
が下がるという問題がある。そうすると生物が住みにくい環境になるため、水循  
環をどう図るかは大事である。例えば箇所②のクリークの水を堤外水路でもって  
きてそこに入れるとか、そういう方法をとっておかないと水質、底質が悪化して  
アサザの生息も人の利用も難しくなるので、検討したほうが良い。

洪水時の流速が下がると有機物が堆積するようになるため、それも含めて水循環  
をどう図るか、検討を慎重、重点的に進めていく必要がある。

委員長：中堤は不透過の構造物になるのか。透過性のあるものであれば若干でも寄与す  
ると思う。

事務局：基本的には透過する構造である。

委員長：底質の管理が難しいため、しっかり予測を立ててやっていく必要がある。

### 議事③多自然川づくりの実施方針等 3)一年生草本の生育適地の整備

委員：一律でつくるのではなく、アンジュレーションをつけると良い。どうつけるかは  
あるが色々な高さがあると良い。

委員：整備箇所のイメージ図と異なるため修正が必要である。

### 議事③多自然川づくりの実施方針等 4)河川利用

委員：細かいところのデザインは大変で、議論も時間がかかる。この会議ではどうい  
う進め方をするのか。

事務局：細かなところは地元主体で決めていきたいと思う。この場では、こういう視  
点が必要、こういう整備が有効という助言をいただければと思う。

委員：デザイナーに相談する手順を踏まないと良い空間にはならないので、何か考  
える必要がある。

糸貫川など良い事例をみて、今回の小田川の付替えに生かしていくことが必要で  
ある。

堤外水路について、糸貫川の水路は動力で水を流しているが、自然流下で流せ  
ると、子供にとっては魅力的な空間になる。

渦が巻いてごみが漂着していく空間になるのではないかと懸念がある。そのチェ  
ックをどうするか、維持管理をどうしていくかが大事なため、検討して次回以降提

示してもらいたい。

委員 : 葉っぱを水面に浮かべているタイプの植物はごみの漂着が問題で、卓越風でどこに集まるかが決まるので、最終的に集まりやすさ、水がどう動くかに関係すると思うので、集まるようであれば開口部に工夫が必要になると思う。

委員 : アンケート結果を見ると、アサザに興味がある方も多いので、リーフレットを作成して普及啓発を図ることもできると良い。

委員 : 昭和 30 年、40 年代に池が深くなり、子供が池に近づけなくなった。この機会にアサザを柳井原の植生地として育てていければと思う。

委員長 : 子供たちが池で遊ぶこともあるので、安全に気を付けてもらいたい。

道路があるので、信号をつける、制限速度を抑えるなどをやっていかないと、池に近づきにくくなると思う。

水路（排水施設）は以前より下流になっているが、この位置で大丈夫か気になる。水質の悪い水が出てくるなら、礫間浄化などが考えられる。

#### 〈閉会后〉

委員 : 資料は持ち帰ってよいか。

事務局 : 事前にもお配りしているので、扱いは慎重にさせていただくことで問題ない。

—以上—